

令和4年度第1回広島県公立大学法人評価委員会

- 1 開催日時：令和4年7月13日（水）10：00～11：30
- 2 開催場所：WEB開催
- 3 出席者：【評価委員会委員】曾余田委員長，浅田委員，山川委員
【法人】森永理事長職務代行者(兼)副理事長，有信副理事長，津森理事，馬本理事，
井井理事，太田理事，木村理事 外7名
- 4 議題：令和3事業年度業務実績報告

（評価委員：○，広島県公立大学法人：●）

- 叡啓大学の志願倍率は1.5倍となっており，厳しい状況と思われるが，どのように受け止めているのか，また，今後どのような対策を講じていくのか。
- 全国的に志願倍率が低下する中，志願倍率は1.5倍に止まったところであるが，叡啓大学が求める学生は確保できている。一方で，志願倍率を高める必要性は感じており，高校説明会の実施や，西日本出身の学生が多いことから，東日本の高校への働き掛けなど，志願者確保に取り組んでいる。
- 入学後にミスマッチが生じないよう，広報活動や選考に取り組まれていることはわかった。一方で，志願倍率の向上についても，しっかりと取組を進めていただきたい。
- 叡啓大学では，コンピテンシー修得に取り組まれているが，学生に対して，どのように成果を落とし込んでいるのか。
- コンピテンシー評価の学生へのフィードバックについては，キャリア支援・就職支援との関連が強いものであり，今後，そうしたステージに入っていくことから，今まさに制度設計しているところ。
- この2年間，新型コロナへの対応として，どのようなことに取り組まれてきたのか，また，今後，どのように発展・継承していくのか。
- 県立広島大学では，新型コロナ対応として，当初はオンデマンド授業からスタートし，徐々にリアルタイム型を導入していった。令和3年度には，オンラインでもアクティブ・ラーニングができるよう研修を重ね，加えてハイフレックス型（※一つの授業を，オンラインでも対面でも受講できる授業形態）を展開した。こうした取組を継続していきたい。
- 叡啓大学では，大講義室での授業はなく，25人以下の小規模での授業のため，当初から，オンラインの場合でも能動的な学修となるよう取り組んできた。ハイフレックス型も令和3年度の秋クオーターから実施している。
- 授業外の学修時間が増えていることも，こうした取組の効果なのではないか。感染拡大防止を図りつつ，学生の学修意欲を高める方法について，新たなモデルを提示する大学として是非，県内外の大学にも共有してもらいたい。
- 留学生の受入体制の整備については，「評価なし」となっているが，大学では受入体制の整備を進めていることから，新型コロナの影響を勘案すれば，「計画どおり実施」で良いのではないか。
- 国際学生寮について，レジデント・アシスタント等を中心とした運営体制を整備するなど，環境整備に取り組んだところであるが，留学生数という観点では，自己評価困難と考えた。
- 留学生受入に向けて，努力した内容をしっかりと書いた方が良い。かなり努力されており，もっと強調しても良いと思う。
- 国際化の推進については，来年度に向けて，記載内容の充実に努めたい。
- 叡啓大学としては，高校教員や生徒からの理解度を高めることが重要だと思う。高校も探求的な学びのやり方を模索しているところであり，叡啓大学がそのためのFD，コンピテンシー教育などの取組を情報発信すれば，高校への良いメッセージになると思う。